

令和6年 網走市議会  
文教民生委員会 会議録  
令和6年11月1日（金曜日）

○日時 令和6年11月1日 午前10時00分開会

○場所 議場

○議件

1. 第2期濤沸湖環境保全活用ビジョンの策定について
2. 行政視察の取りまとめについて

○出席委員（7名）

|      |      |
|------|------|
| 委員長  | 永本浩子 |
| 副委員長 | 村椿敏章 |
| 委員   | 金兵智則 |
|      | 栗田政男 |
|      | 里見哲也 |
|      | 古田純也 |
|      | 古都宣裕 |

○欠席委員（0名）

○副議長 立崎聡一  
（議長代理）

○傍聴議員（1名） 松浦敏司

○説明者

|         |      |
|---------|------|
| 副市長     | 後藤利博 |
| 市民環境部長  | 田邊雄三 |
| 市民環境部参事 | 梅津義則 |

○事務局職員

|       |      |
|-------|------|
| 事務局長  | 岩尾弘敏 |
| 次長    | 石井公晶 |
| 総務議事係 | 早渕由樹 |

午前10時00分開会

○永本浩子委員長 ただいまから、文教民生委員会を開会いたします。

本日の委員会ですが、所管事務調査であります。

それでは、議件1、第2期濤沸湖環境保全活用ビジョンの策定について説明を求めます。

○梅津義則市民環境部参事 資料1号、第2期濤沸

湖環境保全活用ビジョンの作成について御説明をさせていただきます。

ビジョンの案はタブレットのほうで御覧いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

本ビジョンは、網走市と小清水町が濤沸湖と周辺地域における自然資源の保全と再生や賢明な利用を図り、次世代に継承するため、現在の状況に応じた様々な指針となるよう平成23年に策定をしたものです。そのビジョンも10年で見直しをすることになっておりましたが、濤沸湖でカヌー等を利用したモニタリングを兼ねたアクティビティの可能性を検討する濤沸湖保全と利用のためのルールの一部改定作業に着手したため、改定作業を1年遅らせ、令和4年から3か年で改定を行うことで進めておりました。

令和4年度には公募型プロポーザル方式により委託業者を決定し、住民説明会を開催しております。

令和5年度には濤沸湖エコツーリズム推進協議会を3回、有識者ヒアリングを1回、改定に伴う住民アンケートを2回、住民説明会を1回開催し、意見の集約を図ってまいりました。今年度が3年目ということで、最終の年度になってございます。

内容についてでございますが、まず1章の濤沸湖の特徴と課題については本編の1ページから37ページとなっております。

濤沸湖の自然や生き物、人や社会の特徴について示しております。

38ページを御覧ください。

2章では、課題と旧ビジョンに関わる取組の評価について示しております。濤沸湖の課題ということで、特に湖の環境悪化に関する課題として、野生動物が休息や採餌、繁殖の場として利用する一方で、漁場として産業を支える場である濤沸湖にとって、水質の悪化や浅化は双方にとって重要な課題であり、有効な保全策が強く求められたところでございます。

39ページを御覧ください。

新たな課題といたしまして、希少動物の捕獲、採取の禁止、野生動物との軋轢、情報の見える化、多言語発信、利用マナーの向上、新たな資金調達などが意見として出され、記載をされております。

43ページを御覧ください。

3章で、瀧沸湖の目指すべき姿を「人と自然が共生する瀧沸湖」としたところでございます。未来像の図は現在作成中でございます。

44ページを御覧ください。

達成するための課題解決に効果的に取り組むための3つの目標を定めております。

目標1、瀧沸湖の保全と活用に資するモニタリングの実施と情報の蓄積として、実施のリーダーが瀧沸湖水鳥湿地センターとしております。

目標2、瀧沸湖の自然を生かした地域振興として、実施のリーダーが網走市、小清水町のそれぞれの観光協会としております。

目標3、瀧沸湖を知り、誇りを胸に集う共同体の構築として、実施のリーダーが網走市、小清水町としております。

45ページを御覧ください。

4章では、3章で定めた3つの目標達成に向け、取組の種類や全体の体系を示し、具体的な取組内容を記載しております。

48ページを御覧ください。

5章では、取組の進め方として、ビジョンの改定を行うサイクルやビジョンの位置づけについて示し、目標の実現に向けてPDCAサイクルの考え方に基づく的確な進行管理を行うこと、また、住民1人1人が瀧沸湖に関心を持ち、目標の達成に向けた取組を進めるため、住民、事業者、行政の共同で取組を進めることを記載しております。

6章は巻末資料になります。

次に、2つ目の資料で、瀧沸湖環境保全活用ビジョン改定の資料編についてでございますが、こちらの資料編につきましては、瀧沸湖の河川の水質などの経年変化、これまで確認された生物の目録、希少種や外来種の目録、ラムサール条約の選定条件に関する位置づけなどについて示されております。

次に、資料1号の2の今後の進め方についてでございますが、まずはパブリックコメントの実施についてでございます。

対象は瀧沸湖に興味、関心のある方で、応募の方法ですが、専用用紙に記入、郵送もしくは持参、メール、ファクス、その他各コミュニティセンターに設置した回収箱に投函をしていただきます。

専用の用紙は市の公式サイトからダウンロードするか、生活環境課と各コミュニティセンターで配布をいたします。

受付の期間は、令和6年11月15日から12月14日ま

での1か月間募集いたします。

その結果を来年の1月に開催を予定している瀧沸湖エコツーリズム推進協議会に報告し、策定の方を進めていきたいということで考えてございます。

説明は以上でございます。

**○永本浩子委員長** ただいまの説明で質疑等ございますでしょうか。

**○古都宣裕委員** 説明は理解したんですけども、このパブコメの期間を1か月と定めた時期と期間の理由というのは何かあるんですか。

**○梅津義則市民環境部参事** 今回の委員会を経て、その後に実施をするということで時期は決めておりました。期間については特に決まりもないんですけども、1か月間程度実施したいということで考えております。

**○古都宣裕委員** とすると、パブリックコメントをやりやすよという周知期間があまりにも短い中で、そこからパブリックコメントとして意見を募集する期間が1か月というのは、いささか短いように感じるんですけども、それは周知を含めて大丈夫という判断はどの辺にあったんですか。

**○梅津義則市民環境部参事** 今までもアンケートとかを実施した経過もございますけれども、今から半月後ですか、11月の中頃から1か月間ということで考えておりますけれども、もしその前段の周知が必要だということであれば、その辺については検討したいというふうに考えてございます。

**○古都宣裕委員** 今までもこのような手法でこれぐらいのというようなお話だと思うんですけども、じゃあそれでどれぐらいパブリックコメントを頂いていたんですか。それを十分な量、もしくは十分な意見が頂けたと感じているのか、その件数は少ないと感じているのか、どういう形なんですか。

**○梅津義則市民環境部参事** アンケート調査ですね、今までも住民アンケート2回を実施しております。それなりの件数を頂いております。1回目がアンケートとしては6件の意見を頂いておりますので、関心のある方については何か意見を言っていただけるものというふうに考えてございます。

**○古都宣裕委員** 例えば水鳥湿地センターによく顔を出している人、もしくは出していたような人たちに対して、パブリックコメントとしてこういうのがあるんですけども、意見があればというような形で、こっちから積極的にそうした人に接触を図っていく必要があるのではないかなと思うんですけど

も、例えばコミセンとかに、先ほど言ったように置いてあるというような、なかなかその人たちが触れるかどうかわからない状況の中で、じゃあパブリックコメントをやりました、1か月で閉めましたという中では、後からそんなことをやっていたのを知る可能性もあると思うんですけども、よくセンターに来ているような方を把握しているような状況なんですか。

**○梅津義則市民環境部参事** 瀧沸湖には瀧沸湖ファンクラブというボランティア団体、当センターが所管するボランティア団体もありまして、そこには今現在65名の方が登録されております。そういった方々には御案内をして、今回やっているよということはお知らせしたいということで考えてございます。

**○古都宣裕委員** そういった方々プラス、その方々の周りも似たような趣味ですとか、そういった興味をお持ちの方がいらっしゃるかもしれないので、そういった周りにも声かけてもらうように積極的にこちらから声がけすることが大事だと思うので、その辺もよろしくお願いします。

**○永本浩子委員長** ほかに質疑ございますでしょうか。

**○金兵智則委員** ビジョンの中身についてはもう少しじっくり見せていただこうかなというふうに思います。

私からしてみると、11月1日の今日委員会があって、15日からパブコメというのは今までどおりきちんとした流れなのかなと。委員会としての意見もし伺えたらという意味でやっていただいているんだと思います。ちょっとほかの委員会のことですのでここで言うこともおかしいかなと思いますけれども、昨日の宿泊税の話なんかは、もうすでにパブコメをやっていきますというような説明の仕方をしていきますけれども、あれってちょっとおかしいのではないかなというふうに思っているの、これはすごく真っ当な方法を今回取ってくれているのかなというふうに私自身は思っています。パブコメ中だったり、パブコメが終わってから委員会に説明を求めて、何を委員会に求めているんだろうという状況ではないので、これはしっかりとやってもらっているのかなというふうに思うんですけども。

瀧沸湖に興味、関心のある方って、関心のある方がやるんでしょうけれども、これ別に全国各地からネットでも出すということですね。全国各地から意見をもらってもいいということですよ。

**○梅津義則市民環境部参事** 先ほど申し上げた瀧沸湖ファンクラブの中には、やはり主に網走市、小清水町の方が多いんですけども、その地域に、1市1町に限らず、近隣の市町村、もしくは東京の方ですとかも所属しております。瀧沸湖に関することです、市民とか町民ということに限らず、興味、関心がある方ならどなたでも意見を広く募集したいということで、そういった応募枠ということで考えてございます。

**○金兵智則委員** わかりました。

また、専用紙なんかは公式サイト、生活環境課、エコセンターで配布となっていますけれども、これは網走分ということで、小清水町さんのほうでは小清水町さんのほうでも同じ期間でやられるという考えでいいということですよ。

**○梅津義則市民環境部参事** その辺は小清水町さんとも打ち合わせをしております、同期間お願いするという形でやります。

**○金兵智則委員** 水鳥湿地センターには置かないんですか。

**○梅津義則市民環境部参事** すみません、ちょっと資料のほうに記載がなかったんですが、センターには置きますし、こういったことはやっていますというのは掲示板で周知はしたいと思っております。

**○金兵智則委員** そうですね、もちろん水鳥湿地センターにはあるということですよ。いや、ちょっと明記がないので、どうしてよりによって本丸でやらないのかなというふうに思ったものですから、資料にはないけれどもやるということですね。わかりました。

この後少し時間をかけて読ませていただいて、また何かありましたら、お話は別のタイミングというか、別の機会ですさせていただけたらと思いますけれども、今回の進め方については、僕は違和感がないということだけお伝えさせてもらって、そういうことが今後、ちょっとね、ここで言う話ではないかもしれないですけども、全部の課がそのように対応してくれるようにしていただけたらなというふうに、せっかく副市長もいらっしゃいますので、意見だけ述べさせていただきたいというふうに思います。

**○永本浩子委員長** ほかに質疑ございますか。

**○里見哲也委員** 前々回かなんか別の資料で、今の湿地センターの利用状況で、1日平均年間40人ぐらいたったかのような記憶がちょっとあるんですけども、結構この湿地が着目されているのかなという

気がしますが、これ小清水町と一緒にということの中で、この環境保全活用ビジョンとなっていますから、この活用については、今回パブコメの後、もっと観光だとか何だとかに活用していこうとか、そういった方向性もまた打ち出されることも想定されているのか、ちょっと伺います。

**○梅津義則市民環境部参事** 役割分担の中で観光協会というところも入ってございます。小清水町さんであればですね、カヌーのモニタリングツアーを実施したりということを今実際にやっておりますので、そういった方向で小清水町さんのほうで、思いですけども、積極的に濤沸湖が活用されている、観光の分野では活用されているということで認識をしてございます。

**○里見哲也委員** わかりました。こうやって十何年かに1回、こういったビジョンが新しく設置されることで着目される。我々の、私も今回こういうのあるんだというのを、すみません、学んだわけですけども、ぜひ注目度が上がって、環境保全についても、あるいは観光についても活用される方向に生かして、今後生かしていただけたらいいのかなというふうに思います。

以上です。

**○永本浩子委員長** ほかに質疑ございますか。

**○栗田政男委員** 身近にある湖なのでよく私も見ているんですけども、子供の頃から見ても、昔はどれぐらい深いのかなと歩いてみたら、岸まで全部渡れちゃうんですね。泳ぐ場所がなかったというね、変な記憶が蘇ったんですが。

この資料にも出ているんですけども、浅くてあれだけの水量があるというのは珍しい、小さな沼は別にしても、湖と名のつくああい景勝地で珍しい場所だと私は思っています。

そこはそこまでなんですが、これ1市1町にまたがって、面積的には河口付近が網走市の管轄ですよ。奥のほうは小清水町ということなので、当然こういうビジョンはつくらなければいけないんですけども、網走市の立場で言うと、やっぱりせっかくなので、よく小清水町さんとも協議の上に、しっかりとした実効性のあるものをちゃんとつくってほしいんですね。えてして、こういうことをやるとただつくって終わりみたいところで。

当然あそこはラムサールとかいろいろな関係があるんで、変に開発とかできない場所になっています。ですから、多分メインになるのは、今自然環境をど

うやって保全するのがメインになるかと思うので、その辺を、小清水町さんとの広域連携というか協議をもう本当に密にしなければいけないんですけども、どのようになっているか教えていただければ。

**○梅津義則市民環境部参事** このビジョンを策定するに当たって、濤沸湖エコツーリズム推進協議会というのを活用して行ってまいりました。その中のメンバーと言いますか、網走市、小清水町、それぞれメンバーとして加わっております。常にですね、小清水町さんとはこの案を策定するに当たって、向こうの事務局とは一緒にやっております。今の時代ですから、オンラインとかでつなぎながらやっておりますので、そういった面では網走市だけでは進めているということでは決してございませんで、お金の面で言いましても、小清水町さんに人口当たりですけどもお願いをしてですね、負担金を頂いているといったこともございますので、決して網走市だけで進めているということでは考えていないところでございます。

**○栗田政男委員** 別に網走市で勝手にやっているとは僕は言って、そういうことを聞いたかったわけじゃなくて、連携をしっかりとやってほしいということ。というのは、小清水町で観光に今力を入れるにしても、やっぱり小清水町というのもあそこは中心なんです。あと小清水町の市街地には観光地らしい観光地はないので、原生花園もある程度、著名度も有名になっていますし、かなりの景勝地という意味でも、東側に見る景色というのも膨大というか、とても素敵なものがあるので、それと私どもの持っているセンターとの融合性というか、連携も当然しなくちゃいけないでしょうし、それは行政区を超えた中でしっかりと取り組んでほしいという。その中で広域連携をしっかりと、Z o o mでやっていらっしゃるというけれども、近いんだからもっと頻繁に行ってしっかりと集めてやるということが大事だと思います。

策定は策定で構いませんけれども、えてして本当につくって終わりみたいところがあるので、それは役所仕事になってしまうので、そういうことのないように、しっかりと将来に向けて、将来の人たちがこれを見てしっかりとやらなければいけないというような実効性のあるものをつくっていただければというふうに希望いたします。

それについて何かありますか。

**○梅津義則市民環境部参事** どちらかというと濤沸

湖については、網走市が環境分野を担当しております。水鳥湿地センターを中心としたルールですとかの啓蒙啓発を行っております。逆に小清水町さんは観光のほうを主に活用されていて、先日もオホーツク・バード&バーダーズ・フェスティバル2024ですか、そういったのを水鳥湿地センターを活用していただいて開催されたというところで、この辺のすみ分けというのは非常にうまくできているのかなということと考えておりますけれども、今委員おっしゃるように、この計画について今後の進め方についてはPDCAサイクルですか、そういったものを活用していく中で、小清水町さんとも一緒に取り組んでいければということと考えてございます。

○永本浩子委員長 ほかに質疑ございますか。

○古田純也委員 今お話ありました、網走市が環境問題、小清水が観光という話をされたんですけども、あそこに実際にあるモンベルさんというのも大分この分野に関しては全国的に有名なところがあるんですけども、その介入というのものもあるんですか、観光に力を入れていただくという意味で。

○梅津義則市民環境部参事 位置的にはやはりモンベルさんがありますので、モンベルさんに来られるお客様が濤沸湖を御覧になられるということももちろんありますし、あそこができたのを機に小清水町の観光協会をあそこに、事務所に、すぐ隣にできたということもありますし、道の駅なんかも改築を今年度して、飲食部分を広げたりとか、小清水町さん原生花園にかなり力を入れているというふうには考えてございます。

○古田純也委員 わかりました。

○永本浩子委員長 ほかに質疑ございますか。

○村椿敏章委員 私からも1点、網走が環境という部分で、資料編をちょっと今見ていたんですが、2ページのところに流入河川水というところがあって、この水質の経年変化が1996年から2009年までずっと出ているんですけども、短いなど。その後2024年ですから、その先はどのようになっているのかなと思ったんですが、この辺についてどういうふうになっているんでしょうか。

○梅津義則市民環境部参事 こちらのほうですね、ちょっと資料として、ちょっと途中で切れているような形になってございますけれども、環境対策係のほうで2年に一度は浦士別川のモニタリングしておりますので、そういったこともですね、ちょっと今後載せるようなことで考えていきたいと思います。

○村椿敏章委員 そうですね、ずっと続けていることでしょうか、その変化がわかるような、そういう状況にしてもらいたいと思います。

あとガイドさんですかね、やっぱりこういう湿地センターのところを広く知ってもらうには、ガイドさんの養成とかそういうところも、ここには書かれてはいると思うんですけども、実際何人くらいのガイドさんが今いるのかとかを、そういうところもやっぱり入れていく必要があるのかなと思うんですが、いかがですか。

○梅津義則市民環境部参事 ガイドについてですが、以前濤沸湖エコツーリズム推進協議会のほうでガイドの養成ということでちょっと進めた経過というのはございますが、なかなか養成についてはうまく進まなかったというようなことはございます。4年前からですか、小清水町さんがガイドを養成して濤沸湖を中心とした野鳥とか植物のガイドを養成しているということもございますので、その辺について記載に加えていきたいというふうに考えてございます。

○村椿敏章委員 はい、わかりました。

○永本浩子委員長 ほかに質疑ございますか。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、この件につきましてはこの辺で終了したいと思います。

ここで、理事者退出のため、暫時休憩いたします。

午前10時27分休憩

午前10時27分再開

○永本浩子委員長 それでは再開いたします。

次に、議件2、行政視察の取りまとめについてです。

先日行いました、中空知衛生施設組合リサイクルン、また、中・北空知廃棄物処理広域連合エネクリーンにつきまして、皆さんから視察の所感を述べていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○古田純也委員 大変勉強になりました。大変きれいな施設で、ただ、15年、20年たてばいろいろな新しく法律も変わって、またやり方も変わらなければいけないのかなというのを感じましたし、やはり人口減少はどうしても考えていかなければいけない部分がありますので、安心な、または継続的な稼働ができるような、今後の適正なやっぱり施設の建設が必要かなというのは感じました。

○永本浩子委員長 ほかにいかがでしょうか。

○古都直裕委員 リサイクリーンのほうについてはメタンガス発酵施設ということで、今検討している中で見れたのは有意義かなとは思いますが、湿式、乾式の違いがある中で、今、広域として提案されているのはたしか乾式だというふうな認識だったので、その中で湿式と乾式の大きな違いというのはこうであるだろうではなく、確定的なものがわからないという中で、湿式については理解が深まったと思うんですけども、現時点で導入を考えているであろう乾式のほうについてはちょっとわからないかなと。リサイクリーンのほうでも、層を3つ造った中でほぼほぼ稼働が2つであるというところも踏まえたときに、将来の人口推計というのを、また現時点での実数の把握というのは大変大切だなというふうに思いました。

あとはエネクリーンのほうですけども、エネクリーンとしても、今現在ではプラスチックごみを分けていないということもあり、今それを燃焼のカロリーとして計算している中で、焼却としては今現時点大変いい形で燃やしているけれども、環境の負荷を考えた上で、これから分別化を進めた中で果たしてそれがしっかりと回るかという、また疑問が生じるということもありました。そうした中で、今現在、今のやり方、5市9町の中でやっているのは大変効率的に行っているんだなというのが見れたというのも勉強になりました。

ただ、そのやり方というのを見たときに、今ここオホーツクでメタンコンバインドということで、同じところでやっていくのではなくて、分けるということも考えられるということを改めて認識できた部分では良かったかなと思いますが、同じ方式、必ずメタンコンバインドというところを見れたわけではないというところにはちょっと疑義が生じますけれども、勉強になったという部分で、細かいところはレポートのほうに書きましたけれども、そうした部分で移行できる部分というのもあったかなというふうに見てきました。

以上です。

○里見哲也委員 リサイクリーンの中空知のほうのメタンですけども、20年以上前からもうすでにこういう取組をされているという現場を見て勉強になりました。その湿式、乾式の部分はもちろん、我々のこれからやろうとしているところはどうかという研究課題はあるかと思うんですけども、意外

に、クリーンという名前がついているように衛生的な施設で、20年以上ある意味ちゃんと続けているということは、将来的には、さっきも話ありました人口減少の課題はあろうかと思うんですけども、これは長く続けられる施設なんだというような印象を持ちました。

そして、環境基準ですよ、水質を言われたものを出さないとか、それはその後に行ったエネクリーンもそうなんですけれども、空気とか燃焼の出る環境汚染、それは臭気、匂いとかも含め、非常に、両方の施設とも環境に配慮されているということが確認できたので、後のほうのエネクリーンさんは10年以上経過していて、しかもなおあんなにきれいだということなので、設置の問題とか環境の問題というのがもちろんあろうかと思うが、これはいずれにしてもなるべく早くやる方がいいのかなというふうには思ったんですけども、十分なその環境対応とか、それから湿式、乾式の話もありましたし、本当に研究するのには現物を見ることができてよかったなというふうには思いました。

以上です。

○金兵智則委員 僕自身も大変勉強になりました。リサイクリーンさん、エネクリーンさんを見せてもらって勉強にはなりました。詳細は資料もついているでしょうし、レポートで皆さんいろいろと書いているんだと思うので、僕も少し書きましたけれども、最終処分場の課題もあり、そして中間処理の建設を多分遅らせることはちょっと難しい、1市5町で進んでいることもあり、難しいんだと思うんです。そして12月には議会の規約か何かですかね、一部事務組合の規約か何かの多分議案が上がってくる予定になっていて、そこにはメタンコンバインドという文字が入ってくるという話も伺っているの、もう1か月しかないような状況なんです。

見てきて勉強になったら疑問点もたくさん出てきたと僕自身は思っているんですよ。人口減少、この人口動態を市としてどう見ているかというところから始めなければいけないのではないかなというふうなまで思ったので、今回せっかく視察に行ってきたので、11月、皆さん諸々年末に向かって忙しいのかもしれないですけどもこまめにちょっと議論できる場というのは必要になってきたのではないかな。そうじゃないと、12月に判断をするための材料が、ちょっと今の中でいくと、視察はしてきました、いいものを見てきましたけれども、これは本当に1

市5町で最適なもののかな、必要なもののかなというのを判断していかなければならない中で、ちょっと時間的に厳しくなってきたなというのも率直な意見です。

以上です。

○永本浩子委員長 ほかにいかがですか。

○栗田政男委員 皆さんがおっしゃった通りだと思います。正直に言って、行って見なければよかったなと思っています。というのは、知ってしまうといういろいろな疑問がいっぱい出てくるし、今回の計画自体はすごくいいのかなと思って、国が推奨している最新のものだから、最新のものが最良であるのかなという変な認識を僕は持っていますから。

そんな中で見させていただいて、たまたま生ごみを分けた形のプラントでした、両方とも。そのメタンのほうについては、これは本当にガスを利用して発電というのは、売電収入も全部考えたときに、全然コスト的には合わないんですよ。いくら環境にどうのこうのと言っても、そのガス量も少ないです。それが乾式になったからってどの程度効率的になるのかは、ほぼほぼちょっと難しいのかなという気がしますし、ディーゼルエンジンの発電となると、化石燃料、軽油なり、重油を燃やして足して発電しているということですから、それって本当に自然エネルギーなのかと考えると、それはちょっとという疑問符がついてしまったのが今回のお話でした。

それと急速に、古田委員も言っていました、人口減少するということですから、生ごみが必要とする分、必要とするというか、その発電に賄うだけのものが今後は多分出てこないだろうということです。最終的にはこの方式はやめざるを得ない方向性なんだという体験、将来性も聞きましたので、そうなるかと本当によくよく考えてやっていかないと、後の残る、網走市のこの地域ですよ、全体になりますから、地域の人たちが本当にその負担をどうするのかというのをすごく考えさせられる部分でした。

焼却というのを初めて私は見たので、すごい設備ですよ。単なる燃やすだけで灰を最終処分場に埋めるのかなと思ったら、それに至るまでのいろいろなコストが莫大にかかります。

何よりも一番びっくりして、ちょっと僕自身もランニングコストについてはあまり意識してなかったんです。建設コストがどうしてもイメージがあったんですが、ランニングコストが15年でほぼ建設費以上に上がってしまうと。これは専門のそういう建設

を設計、施工した会社が独自の会社をつくっていたいて管理運営していかないと、到底素人ではそれに参画して運営していくのは無理だということがわかったので、当然今回の計画の中でもそういう方向性というのがあるので、これも新しい事案なので、ランニングコストって幾らかかるのかなと、今まであんまり議論して僕は記憶になかったんですが。

もろもろ考えると、今その補助金の関係、2分の1、3分の1の関係で国が推奨するものをとということなんですが、そこに金額がすごく差が出てくるんですが、そこばかりを注視してしまうと必ず以前の庁舎のときと同じように失敗してしまった。これは個人的見解なんです、庁舎もやはりその補助金ありきでずっとやっていたことによって、いろいろな縛りの中で、現実は今出来上がろうとしている中では、うーんという、出来上がったけれども単なる箱だみたいな感じになってしまった。非常に残念な事案なんですね。それは我々がそれを通したということに責任もあるんですが、やはりそういうこともしっかりと考えて、なぜ国がそれを推奨するのか、ちょっと明確な答えが出ない限りやっぱりわからないというか、まだまだやっぱり説明不足だと思います。

その件に関しては、今東藻琴で行われている住民の説明会の中でもいろいろな疑問符がついているので、なぜまだ実績がないものを入れるのかという部分については、やっぱりしっかり各議会が議論すべきだなというふうに思います。

金兵委員から言われたように、反映されなければ行った意味も何もないし、事務組合で議員さんが派遣され出すとそちらのほうで動いてきますから、その前にやっぱりやるべきことはしっかりと、皆さんのコンセンサスを取っていく必要があるのかなという気がしますので、早急にその辺は網走独自にきちんと委員会のほうで所管事務をしていただいて進めていくのがベストなのかなと思います。

もうありきで進んじゃうとちょっとそれも困ったものだなという気がしますから、納得した上でありきだったら構わないんですが、どうも今のペースだとそれしかないです。

網走市の執行者側も、やはりその辺の認識って、システム、構造的なものに理解度がまだまだ足りないのかなという気がしますので、それも含めてちょっと早急に検討し、みんなで議論していったらいいのではないかなというふうに、そういう所感です。

○村椿敏章委員 私も今回のメタン発酵で、ガス発電しているというところを初めて見させていただきましたが、かなりメタン発酵というのがいい部分もかなりあるんだろうなと思いましたけれども、当初ね、何でこういうふうになったかというところも、歌志内市にある民間の焼却施設ですか、そこでは生ごみは受け入れないというところから始まって、ここに至ったんだなというのはあるんですが、結果的にその3つの層のうち1つしか今動いていないというところが、人口減少によって生ごみがぐっと減ってしまったというところを考えたときに、今後の網走がやろうとしているメタン発酵がどこまで人口減少に合わせていけるものなのか、それができないとすればやはり別のこともやっぱり考えなければいけないのかなと認識した次第です。

あと、焼却炉のほうについては機械化されていて、そのメーカーでないとなかなかできないと、維持管理がですね。そういう部分に対してお金もかなりかかるような形になるでしょうから、しっかりと、今後ですが、議論していかなければならないだろうな。

金兵委員や栗田委員も言っていたように、早急にこの部分については所管事務調査を開いて、しっかりと理事者とどういう内容なのかしっかりと議論していく必要があるなと今思っているところです。

以上です。

○永本浩子委員長 皆さんから様々な見解を聞かせていただきました。

報告書、今日の5時までということで、これから上がった分はきちんとまた公開していきたいと思いますが、私も今回両方見させていただきました、やはり行ってみないとわからないことがたくさんあったなという。リサイクルも20年たっている施設ではありますが、やはりこの人口減少ということでごみ量が減って、3槽あるうちの今2槽は動いていて、本当は量的には1槽で十分だけれども、取りあえず2槽を使って動かしているということで、いよいよこれから人口減少も厳しい状況になってくるわけで、そういった部分でも今後造るに当たっては、今後の人口減少に伴うごみ量の減少ということもきちんと考えながら取り組んでいかなければいけないなと思いました。

また、焼却も、今後やはり人材の人件費とか物価の高騰ということで、施設的には老朽化しているけれどもそれに対応するものがなかなか難しい、検討

が必要だということで、まさに斜網地区もいよいよこの物価高ということが今後どれくらい進んでくるのか、20年前、10年前と比べるとかなり大きな違いがあるかと思いますので、そういったことも考えながら適正な体制ということを選んでいかなければいけないのではないかなと思いました。

今後、詳しい条件を加味しての3つのメーカーからの見積りが出てくるのではないかと思いますけれども、そういったこともしっかりと見ながら、どういった形が一番この斜網地区には合っているのかということを検討していきたいと思います。

今、皆さんの中から、11月中にもう少しきちんとこの所管事務調査をやりながら議論を重ねていきたいということがありましたけれども、ほかの皆さんはいかがでしょう。そういった形で11月に行うことでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、ちょっとその体制につきましては正副に一任していただきまして、きちんと持つ形にしていきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、レポートは、先ほど言いましたけれども、本日5時までということで、議会事務局へ提出をお願いいたします。

提出いただいたレポートは、体裁を整えた上でホームページに掲載するというでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、そのようにしたいと思います。

以上を持ちまして、文教民生委員会を終了いたします。

お疲れさまでございました。

午前10時45分閉会